桃李（とうり）の里

福島市立中野小学校

学校だより

発行：校長　益子　朗

中野小学校は本日11月２日、創立百四十二周年を迎えました。午前中に創立記念集会を開き、恒例の全員での記念写真撮影を行いました。今日も全員出席です。今年は早くも全員出席の日数が95日になりました。いつもは12月５日ごろに、全員出席100日を達成していましたが、今年は大幅に記録を更新しそうです。勿論、新登校すると言って具合が悪いのに無理して登校する必要はありませんが、**みんなが健康で、また学校が大好きだからこその結果**だと思います。

これからの風邪の季節ですが、みんなで乗り切りましょう。

中野小がとりあえず目指すのは８年後の創立百五十周年。二十歳になりますちょうど２６年生は１年生にも中学２年生になっている歳です。その時はみんなお祝いに来てください。

NEXT ONE

創立記念日にふさわしいお話をと考えていましたが、最近とても感動したお話で、先日先生方にもこぶしっ子のみんなにも紹介したエピソードを、保護者の皆さんにもお届けします。

それは喜劇王チャーリー・チャップリンのエピソードです。もう亡くなって38年も経ちますから、若いお父さん・お母さん方は名前をご存じかどうか分かりませんが校長は大ファンです。「独裁者」（特に大好きな映画です）「街の灯」「ライムライト」「黄金狂時代」など映画史に残る名作をたくさん残した大スターですが、そのチャップリンが晩年、記者のインタビューに答えた時のお話です。記者が、「あなたは数々の名作を残されていますが、その中であなたにとって最高傑作はどれですか。」と尋ねると、チャップリンは「ＮＥＸＴ　ＯＮＥ（ネクスト・ワン）！」と、即答したそうです。つまり、「次に撮る映画が最高傑作だよ。」と言ったのです。

チャップリンほどの名優・名監督が、これまでの数々の名作に満足することなく、次の作品を自分の最高傑作にするんだという気概を持っていたのです。新進気鋭の頃のチャップリンではなく、晩年のチャップリンがそう言ったところがすごいと思います。

また、彼は一つのシーンに三百回以上もＮＧを出して納得するまで撮り直したこともあるなど、観る人に最高の映画を見せるんだという気持ちも強かったそうです。だからこそ、世界中の人々が彼の映画を観てお腹を抱えて笑い、また感動の涙を流さずにいられなかったのだと思います。

なにかがうまくいったとき、それを素直に喜ぶのはとてもいいことですが、同時に「ここまでできたんだから自分はもっとできる」という気持ちも大切ではないでしょうか。**自分で限界を作っていたら、それ以上の進歩はない**と思います。一方、失敗したときも決してめげないで「次は必ずできる」と、**自分を信じて再挑戦する気持ちが大切**です。

こぶしっ子のみんなも、今学習発表会の演劇の練習に取り組んでいます。練習では、時に思うようにいかなかったりすることもあるかもしれません。先日の全校集会では、演技のうまい・下手ではなく、一生懸命演じたか、いいかげんに演じたかが観る人にそのまま伝わるのだということをお話ししました。一生懸命な演技が観る人を感動させない訳がありません。

こぶしっ子たちの熱演にどうかご期待ください。